

第2回 加西市地域創生戦略会議 会議録

日時	平成27年8月19日(水) 19時00分～21時00分
場所	加西市役所1階多目的ホール
出席者 職・氏名	委員 玉田 啓子、中安 高、千石 唯司、池田 義人、久米澤 稔、 吉田 朱里、立花 莉絵子、西脇 亜李沙、小松原 綾子、吉岡 猛逸、 半井 孝明、柳原 正英(代理出席)、田端 和彦(会長) (13名) 事務局 一番孝明理事、西岡義信ふるさと創造部長、千石剛人口増政策課長、 小菊啓靖課長補佐、岡田展彦主事、小山映まちづくり専門員ほか1名
議題	(1) 進捗状況について (2) 加西市地域創生戦略案について
配布 資料	資料 1 加西市地域創生戦略の策定について 資料 2 加西市地域創生戦略(素案) 資料 3 人口動向分析及び将来人口推計について

1 結果概要

加西市の地域創生戦略の策定の進捗状況や素案等について、資料に基づき事務局より説明した後、各委員により、加西市の地域創生戦略について、意見交換を行った。

2 委員紹介

第1回会議では欠席の委員2名を紹介。

3 会議内容

(1) 事務局説明

加西市の地域創生戦略の策定スケジュール、人口動向分析及び将来人口推計及び戦略の素案について、資料に基づき事務局より説明。

(2) 意見交換

○会長

前回の議論の中で大体の方向性というのは皆さん確認していただいたわけでございます。それに対しまして、この人口の推計というのが出てきましたので、それを実現するためにどうすればいいのかというところで、先ほど詳細なご説明をされましたけれども、アクションプランという形でまとめ上げられている。当面5年間に集中的に実施していくことが必要ではないかと、このような方針がこの戦略の考え方になっているということでございます。多角的に見ていただいているところからご議論いただければよろしいかと思っておりますけれども、どうでしょうか、何かご質問からでも結構でございます。ご意見でも結構です。

○委員

人口の統計のところが出ていましたけれども、去年とか一昨年に亡くなった人、それから生まれた人、そういうのはどうなっているのか。

○事務局

それは資料3の4ページをご覧ください。このページでいう上段の自然動態の推移というものが

直近5年間は実数として挙げておりますので、現状ではこの棒グラフの上が新生児、棒グラフの下がお亡くなりになった方という現状でございます。

○委員

ということはもうずっと減っているということか。

○事務局

現状では生まれる方が大体300人前後、ここ5年ほどでいいますとね。それで亡くなられる方が500人から550人の間というのが、ここ5年の動きです。つまりは、ざっと250人ずつが自然減している。

○委員

転入者については？

○事務局

その下のグラフをご覧いただいたら、上段が転入者です。ここ5年ほどでいいますと900台のものが1,100台ぐらいまで転入者はちょっと増加傾向というふうな状況、その下のほうが転出者なのですが、それは増加傾向、ちょっと去年だけましみたいな状況ですね。

○委員

両方合わせたら500人ぐらい減っていつているということか。

○事務局

ざっと500ほどは減っているというのが現状です。

○委員

だからその辺のことをよくデータに入れて、いろんな政策をやっているが、5年間で例えば2020年に均衡、2040年に安定するのだったら、グラフを作っていて、どの辺でプラスマイナスできるか。現在人口がもう4万5,000しかいないのだから。それから言うと、そのデータが、僕会社やったらね、そんなデータ何やと、出すだけのデータかいと、つくり上げて5万人にするための線を描いているじゃないか。これ実際500人減っていくのが限りなく平衡、それから増やさないといけないということになったら、5年とか10年刻みで書いてみて、それでどうしていくのかと、この5年間はどうするのかと、それで本当に絵が描けるのか、5年間みたら見えてくる。この5年で急にこれがゼロになるのはなかなか難しいのではないかと、よっぽどいい政策か何かやらないと。その辺のことをした上で、努力目標をつくっていった中で得たそれに対して何をやるのかと。

まあ言ったら、新しく転入増やすには、だからもっと住みやすいようにいろんな補助してみようとか、今、女性が子供をもっとたくさん産むことができるようになるためには、保育所もみんな面倒見るとか、いろんなことで、それで何ポイントか上げていくと。亡くなるのはね、これはもう仕方ないだろう。僕らも25年したら亡くなっているわけよ。僕は団塊の世代までがこの絵を見たらね、25年たてば2040年や。団塊の世代のお父さん、お母さんが今亡くなっていつている状況や。だから結構多くなってきている。その次がもっと僕らが亡くなっていく。だったらその辺、大体そういうものはかなりのものを持つとかなないとね。

だからせつかく作るのだったら、なるほどな、という資料をつくらないといけない。こんな絵に書いたような、みんながいて何をしていたのかと。ちょっと有識者が見たら、それは恥ずかしくないかと思う。こんなに有識者がいるのだったら。だから、遠い先それはもうちょっと希望でいいけど、この5年、10年その辺をどうしたらよいのと、その辺がここで頑張っって、この転出者の500人を300人にする、200人にするような、それにはその政策を打つ、それでやっていくというようなことで。はっきり言ってもっと先のことはわからないので、そのようなことをつくったほうがより現実的だね。むしろ努力目標だからいろんなことしながら努力しないといかんという、今のやつだったらもうドーンと減っていくと思う、今のままだったら。それを何かしてもらえなかったら、僕らちょっとこんなデータを出してもらって、これは恥ずかしい。

○会長

ちょっとそれ、人口のシミュレーションの部分ですので、ちょっと具体的にどういうシミュレーションをしたのか説明いただけますか。恐らく先ほどおっしゃったように、これ一応パターンからすると、機械的にやっているのですが、やっぱシミュレーションのパターンとして、先ほど委員おっしゃったように、まず高齢人口は増えて、これは平均寿命が延びるほど増えていくのですが、その後やっぱりどうしても亡くなりますので減っていきます。けども、生産年齢人口を増やしていくことによって、2025年には現在と同じぐらいの水準を維持するというパターンですけど、ちょっとそのあたりのシミュレーションを少しご説明いただけますか。

○事務局

まず、人口動向とそれから推計の資料の一番後ろに、シミュレーションの整理をしています。それをまずご確認いただいて、あとシミュレーションの細かい中身については、説明をさせていただきますが、こちらの横長の表がシミュレーションで、資料の3の一番後ろになります。

○会長

要は、おっしゃりたいことは社会増を増やすことによって、少なくともこの10年間は維持をしていくということですね。その後は、自然増によってこれを回復していくという、自然増はなかなか増えないけども社会増でこれを維持していくと、こういうようなイメージじゃないですかね。そうすると、先ほど委員がおっしゃったように社会増であれば実は政策が打ちやすくて、例えば実際に人口を増やしているところの政策は、実は5人10人の単位で考えているのですよね。ですから、10人増やすためにここにこういうものをつくり、20人増やすためにこういうものをつくり、という政策打ってきていますから、具体的にどういう政策を打つのかっていうところの議論になっていくので、そういう意味では、先ほど委員からご指摘あったところの部分にはなっているだろうというふうには思います。

○委員

これ働く人も電池製造会社あたりで、大変多くなっている、千五、六百人ぐらいの従業員が、今いると思う。その辺が恐らくは入っていないのではないかと。そのデータから見たら。

○会長

ですから、恐らく先ほど言ったように五、六百人の方がここで住んでもらわないと定住ならないので。

○委員

できれば会社でもヒアリングするなりして、去年とか今の状況を見た中で判断しないと、5年前の資料見てやね、我々会社で言うたらそんなもん会議になるかいというようなことをここでやっている。ゆっくりし過ぎというのかな。そんな5年前のもの見て、それでどうかといったところで、何の役にも立たないやないかいと。その辺、事務局の方がいるのだったらもうちょっと回って行って、今より近い動向が必要。人口でもこうなって行って、それで25年先は5万人になっているというけど、団塊の世代の人間が減っていくと大きいと思う。その自然減というのは。それ見た中で、それにはどうするのかと、市長の公約が5万人というのだから、なんとかその方向になる方法はないかというような、無い知恵も出さないといけない。でないと、何か紙切れだけ出して、そんなできないもので時間費やしてやね、格好だけできたと、実行は不可能だということになってしまふのじゃないかという気がしますね。厳しい言い方やけど。

○会長

加西は先ほど住宅地の説明がございましたように、ここに住宅地をつくることによって何人という、こういう計算をされています。それからもっと先ほど言ったように、本来だったら、この施策で50人、この施策で40人という形で計算を積み上げてかなきゃいけないのですけども。

○委員

それが商工会議所も、今外国人労働者の日本滞在の期間が3年から5年になるといったら大体、年間150人来ているので2年延びたら300人ぐらい増える可能性もある。それがぐるぐる回っていくから、帰るんだけどまた来る。だからもうちょっといろいろ情報を机上での計算だけでなく外へ出て行って今の状態見た中で、もうちょっと気の入ったようなものをつくってもらえればいいけどな。

○会長

ありがとうございます。統計的なものにどう肉づけをしていくかというところが多分大事で、それはおっしゃったように具体的にどういう形で、例えば先ほど電池製造会社の例が出ましたけども、今外部から働いている方が何人おられて、それについてどうやったらこちらへ定住していただけるのか、そうすると例えば50人定住していただけると、そのためには住宅地が必要だったらばどう整備していくか。

○委員

だから、今商工会議所の統計をとったら4対6になっている。商工会議所の統計では、調べてみたら市外から働きに来る人が60%、市内の人が40%という。これだと随分、22年だから5年前の資料で、かなり乖離がある。より近い生のデータを見てどうかと、それやっただけいろいろ変わってくるだろうけどな。

○会長

つくったより貴重な情報で、要は60%の人がどれだけこちらへ引きつけるかという政策を。

○委員

そうそう、そんな人をこっちに、住まない地域に、これ引っ張って行って、1年目何人、2年目どうかというのは政策が何やとかいうような関連をつけていったら、ああなるほど、よく考えている

ようだと。夢みたいなどかか何やつくって、団地つくってと言うたって、そりゃ架空のおとぎ話にしかならないだろうと思う。

○会長

それでちょっと今、実は先ほど事務局ご説明ありましたように、企業のヒアリングをされているということですので、例えば企業の方はどうしたらここに定着されるかっていうような、そこら辺を踏まえてどのような政策を打たれたのかちょっとご説明いただけますか。企業活動を一つ中心に委員はおっしゃっておられるので、そこをまずちょっと押さえていきたいと思うのですが、先ほどのご説明ですと、企業のヒアリングをされていて、いろいろと恐らくお話を聞いてこられて、どうしたら定着ができるかっていう施策についても整理されていると思うのですが、この部分からどういう政策を打っているのか、できればそれによって何人定着するかがわかれば一番いいのですが、それはちょっとまだ難しいでしょうけども、アクションプランの中でも結構ですので、ここは例えば大事だというのがあれば教えてくださいませんか。

○事務局

まず、人の動きというところで、確かに国調データっていうのは22年までしかないところでの分析しかできていないのですが、それでは委員言われるように不十分である部分、直近にそぐわない部分というものがあるかということで、その他の分析については住民基本台帳に基づく転入出をベースに、できる範囲での分析は行っております。ですから先ほど言われたように、直近5年間26年度までの自然動態、社会動態、あるいは近隣市及び東京圏、大阪圏への転入出状況等、そこらの可能な範囲での人の動きっていうのは把握しておる中で、今回政策パッケージも考えていきたいということで、データの国調の補足部分は賄っているというところをご理解いただきたいと思います。

○会長

それは多分皆さんわかってらっしゃって、委員もよくわかっておられて、要は、経営者目線で、なおかつ恐らく委員は経営者で、社長室にいるのではなくて、恐らく多分現場を見られることが多い。それで直感的に多分どういうふうな数字かというのがわかられる方だと思うので、恐らくそういった観点からいうと、本当に先ほど言っていた電池製造会社に何人おられて、その方が何でここに定着してくれないのか。定着しても何が要るのか。

先ほど私は住宅の話もしましたけども、住宅が問題なのか。ここでの分析は子育てではないか。子育てが大事だというふうに判断されて、子育てが充実すれば定着してくれるのではないかという判断したのですが、それは多分ひとつ電池製造会社に勤められている方が恐らく若い方であれば、そういうふうな政策が多分有効だろう。そういうふうな流れがあったと思うのですね。そこをちゃんとご説明していただいて、そのためにこの政策パッケージには、これを大きく入れていますというふうにご説明いただけるとよかったですかなと思う。どうですか、そのあたり。

○事務局

電池製造会社は、1,500人ぐらいの方が今いらっしゃるようですが、1,000人ぐらいが正規社員ということでお聞きしています。その正規の方についての話なのですが、従業員は市内4割、市外6割というのが今の居住地みたいで。市外に出ておられる方結構あるのですが、その原因としましては、教育環境、あるいは次の転勤のことを考えるとやはり臨海部、姫路であったり加古川ですね。そちらにお住まいに行かれる希望が多いということで、元々の大手家電会社の

場合ですと市内に社宅がありましたし、独身者について言えば寮もあったと思いますが、割と今の方針としては、居住地については従業員の選択に任されていると、そういう状況がございます。そうした中で、特に単身者向けの住宅についてはまだニーズがあるというのが、不動産の事業者からは聞いておまして、こちらはどんどん提供する必要があるなというふうに考えております。それから所帯向けですけれども、こちらの方はかなり充足しているわけですけれども、新たな住宅供給を図って、環境を整えて市内在住ということに結びつけていきたいなと思っております。

○会長

要するに、企業としては住宅供給があって、あと教育環境の問題が解決できるのであれば、こちらに住んでくれる方が多いのではないかとというのがご意見だと。それにあわせて、政策としてそういったアクションプランを組んでいると。こういうことでよろしいですか。実際これでどれだけの方が住んでくれるのかというのは恐らく、本来委員が気にされているのは多分そこだと、要するに経営だと、これをインプットするとどういうアウトプットがあるのかというのは、気にされることだと思うのですが。そこはなかなかまだ、アンケートでもやってみないとちょっとわからないところではあるのですが。

他どうですか、何かご意見いただけないでしょうか。ご質問でも。

○委員

もしかして的外れかもしれませんが、先ほどのご質問とちょっと関連してくると思いますが、事業所のヒアリングをされているということなんですけど、例えば素案の1ページと2ページのグラフで人口の社会増減のところ、最近平成22年から26年まで増加傾向にあります。それと次の2ページのところの26年度の転入転出の状況ということで、福崎とか西脇とか加東、それから小野、大阪府から転入が多いということになっていますよね、上の表でいきますと。この辺に何か政策のヒントがあるのではないかなと思っています。というのは、何で入って来ていただいているのか。もう一つ言うと、もっと前の方が、入って来た方がなぜ定住しているのかということの、要はアンケートなりをとったら、今後の施策の一つの大きなヒントになるのではないかなと思っています。その辺は。

○会長

例えば、転入者にアンケートとられるとか、そういうことはされたのですか。何かお聞きになっているとかどうでしょうか。他の自治体なんかの例でいうと、転入者アンケート、転出者アンケートをされているところがあるみたいですね。

○委員

それは当社の人間も、小野の人が住むとかしたら補助金が出て、何かそれで得だからとかいうようなことで、結婚して加西市に。それはうれしいことだという話を聞きましたけど、何かちょっと優遇策が効いてきている部分もある。

○会長

もしかしたら住宅を建てられてという理由もあるかもしれません。それからあと、Uターンはあるかもしれませんね。例えば、40代ぐらいだとご両親が高齢期に入られるのでというのはあるかもしれませんが。何かそこら辺わかるようなデータありますか。どうぞお願いいたします。

○事務局

一応、平成24年から市民課のほうに協力をお願いして、転入者及び転出者に対してはアンケート調査をさせていただいているんですね。その中で、転入出の原因を答えていただいたり、加西市に対するご意見を書いていただいたりというようなことは調査してまいっております。また、企業を訪問しているご意見をいただく中で、やはり加西市に欠けているところなどを、これまでもいろいろと人口増という名目のもとに施策としては行ってきたのですが、その行ってきた補助対象者からのアンケートというようなことも行いました。一応、リップサービスの世界もあろうかとは思いますが、大学時代の奨学金の返還に対する補助制度というようなものを当市は行っているのですが、その利用者におきましても、この制度は非常にUターンのきっかけになったというふうなご意見もいただいたり、企業を各社回っていく中で、総務担当、人事担当の皆さんとご意見いただく中では、なかなか転勤があって加西市に何十人単位で入居先を探すんだけど、物件がないというような話をかねてから聞いておりました。そういった中で、アパートの建設促進策というふうな形で施工者に対する固定資産税の減免制度というようなものを設けたりする中で、建設促進というものが図られてきたところかというふうな部分はあると思います。そういった中で、今委員おっしゃられたように26年度においては一定の改善が見られているという状況ができてきたのかもしれないかもしれません。ここは「かもしれない」です。今、この状況というのは26年単年のことなので、今の段階では「かもしれない」という言い方に留めたいと思いますが、今後においても少なくとも転入を促すためには、その物件の確保、あるいは分譲地の確保、さらにいえば雇用の確保というところが必須条件であるという状況にはあろうかと思えます。ただし、そこにプラス今のトレンドとすれば、若者と女性の願いがかなうまちと、希望がかなうまちということで子育て支援をそこに補強していくというところが、今までたどってきた経緯と今後の見通しを持つ中で、施策として注力すべきポイントであろうかというふうには現在は見ておるところです。ただ、今お示ししておるようなアクションプランで事が足るかどうかというようなあたりにつきましては、本日のこの場においてもご意見をいただきたいと思っておりますので、こういった側面へのご入力が必要ではないかというようなこともご意見いただければと思っております。現状ではそんなところかと思えます。

○会長

ありがとうございます。今ちょっと社会増にずっと話の中心があるのですが、ちょっと少しこの議論はまだたくさんしなければならぬ。というのは、短期的には恐らく社会増をどれだけ積むのかがこのシミュレーションの鍵ですから、もうちょっと詰めたいと思います。よろしいですか。

○委員

多分そこが加西市の強みだと思うので、詰めておくことが大切だと思います。

○事務局

補足ですけど、資料3の10ページ、11ページの転入出のところの表があるかと思うのですが、先ほど言われた転入超過になっておる原因のところなのですが、もともと加西市はどちらかというと外から来られるよりも、出て行く人をどういうふう抑えるかというところが非常に大事なところと考えておまして、平成24年からとっております転入出アンケートでも、転出時に結婚を理由にという理由が今も多いのですが、結婚を機に一旦市外に出てしまうという方が非常に多かったんですね。それはアパートや住宅の供給量が十分でないところが原因であるというふうにご考えまして、先ほど申しましたアパート建設の補助を実施しまして、平成25年度19棟それで建ちまして、消費税の増税というところもあったかと思うのですが。この表を見てもらいますと、転

入を、5で割ってもらいますと26年度の数字と比べやすいかと思うのですが、10ページの下
表ですね。決って転入が非常に増えておるといよりも、転出が非常に減っておるといふ
見方をしてもらったらどうかと考ております。ですので、まず、第一義的には、転出をど
ういふに抑制するかといふところは、加西市にとっては非常に大きな問題でありまして、
それが一つ住宅の確保であるといふところは、この数字を見ればわかるのかと。現在の
トレンドにしか過ぎないところはあるのですが。今後は、先ほど委員からも言われたよ
うに、どうやって社会増を回っていくのかといふところでいくと、転入をどうやって
増やしていくかといふ施策を考ていかな
いといけないといふふうに考ております。

○委員

住宅の固定資産税の減免はあるの？

○事務局

アパートが建てられた場合です。

○委員

アパートでなく個人の家は？

○事務局

建築に対しての補助はあるのですが、減免というのはないです。

○委員

考た方がいいのではないか。工業団地に会社が来たら5年間、固定資産税免除とかや
っているのだけ。この前市長にも言ったけど、加西市におる企業にも援助してはと。来
る会社ばかりでなしに。本当に守ってくれるのは、もともと地場の産業はつぶれな
い限り出て行かないのよと。大手さんは、ぽって入って「ほかへ行きます。はい、さ
ようなら」ってなってしまうから。その辺はよそばっかり、こちの人は家つくった
って、働いて家をつくるとしたら新宅とか何かできるわけだから、そのようなこと
も補助してあげるとか。その辺の、来る人だけでなしに、そんなようなことも
できて、何かやって温かいまちとか。そんなやつでいくら家が建つかいふこともシ
ミュレーションするとか。

○事務局

平成22年度から住宅建てられた場合に、50万、25万といふ補助があつたので
すが、どちらかといふとそれは土地を購入して、市外から来る人に向けての補助の
色合いが強かつたですが、やっぱりUターンとかで親の土地に子供が家を建てると
いふケースも非常に多いですし、そういうのも当然定住につながるわけなので、
26年度からはそういう調整区域とか親の次・三男分家を含めて補助の対象とする
ようには拡充をしまして、そこで一定の、固定資産税の減免ではないのですが、
補助といふ形での支援をさしてまらっています。

○委員

この前、広原町が30戸から60戸に増えたといふような話をしていたと思うけど、
そこのある人にこの前話聞いたら、まちから来たら大変だろうと。田舎は草刈りに
行かないといけない、溝普請はしないといけないと言つたけど、田んぼをつく
ってないのだったらそれはいい、公民館の掃除

だけ来てもらったらいいいではないかというように、もう割り切って決めてあげたんやと。その辺は区長、会長さんがいいと言っているのだったら、そのとおりになるね。街に行ったら60坪の家が田舎やったら120坪、畑でもつくっているぐらいの敷地が安く買えるのだから、それで田舎のつき合いが程々だったらいい。そういう施策もやってるんだと、その元区長さんに「何で」と聞いたら、そういうような話もされていました。

だからそれはいろいろ変えることによって、広原町なんて本当にたくさんの方が建っているわけ。そういうこともして、村の政策としてですよ。でないと村に都会の人が来たら、年に何回も溝掃除に草刈に行けとか、山普請とかその辺は、公民館の掃除だけは来てもらうというような話をしましたけどね。

○会長

ありがとうございます。大変貴重なご意見で、いわゆる都会に出ていく人たちの一つの要因の一つ、先程おっしゃったように、とにかく田舎の拘束が嫌だというのは確かにありますので、そういうものを少し緩和していくというのは人口を留めることにも役立ちますし、それから来ていただくにも役立つと思いますので、どこかの政策にこれは入れてもよろしいんじゃないかと思います。いわゆる地域での活動についてですね。まあ何ていいますか、都会的要素といえますか、要するに地縁活動に縛られないところというのもあっていいんじゃないかというご意見となっております。ありがとうございます。

ちょっといろんなご意見をお伺いしたいのですけど。

○委員

計画表を見ていましたら、非常に盛りだくさんな事業があるのですけども。5年間という期限を打った場合にもう少しインパクトのあるようなね、5年間でこれは達成できるだろうと、かなりインパクトのあるものが1つか2つ目玉が欲しいと思うのですけどね。だからそのとき思うのは、やはり人口が増えるのは子育てが1つの問題やね。子育てには乳児、幼児、それで学童と、大体3つのパターンがあると思うんですよ。それと先程委員も言われましたけども、テレビで夕方の6時から6時半ごろからか、何か新しい土地に行って、その地域の方と非常によく融和されて、何か家でパン工房したり、そして喫茶店したり何かしてその溶け込むようになるという番組がありますけども、ああいった貸し農園的なものをもう少し事業として増やしていったらどうかなと思ったりもするんです。

それともう一つは、加西市は非常に未婚者が多い。男性、女性ね。これはすぐ人口増につながる要素を持っているわけですから、見合い事業を今までやられていますけれども、もう少し充実をされた形で、何組見合いをして何組結婚したと、そういうことではなしに、もう少し深く進化した形で事業展開を進めていったらどうかと思うのですけど。

それともう一つ、先ほども言いましたように幼児教育。学童保育に対して言えば、ここに大型児童館、新型児童館の建設があるのですけども、あれはただ単なる児童館ではなしに、地域の老人と昔のいろんな話やったり、日常の生活での今廃れていくような生活習慣、例えば縄を結んだり、遊ぶ道具をつくったり。何かそういうふうなものが一緒にできるような、例えば老人であれば、学校の先生のOBもおられるわけですから、そういった方にもちょっと教育の宿題のほうを手伝ってもらうとかやね。今あるのですけども、制度化されてなくて、ただボランティアでという、非常に浅い形での事業展開なのですけども。もう少しそれにこだわった形で何かできないかと。そのあたりを具体的にはわかりませんが、人口増のためのヒントがあるのではないかと僕は気がするのですけどね。

○会長

ありがとうございます。要するに人口増対策の子育て等の環境づくりのところにもう一回重点的にして、その中でも特に乳児、幼児、学童というところの部分で、先ほど言った未来型児童館なんかでいうと、この整備に当たっては、要するに子供たちのニーズっていいですか、あるいは親のニーズっていいですか、もっと反映させるような仕組みというのをつくったらどうか。それにかかわる人がどんどん増えていくのがいいんじゃないかというご意見となっております。それからあと貸し農園的なものっていうのは、どこかありましたかね、先ほどの中で。多分、特徴ある物づくりだったかな。地域に根差した振興等の中に多分出てくるんだと思うんですけども、そのあたりの中に先ほどおっしゃったようなチャレンジショップ的なようなものですね。そういうようなものの機会を設けられないかとかあったと思いますので、少しつけ加えができるのじゃないかというふうに思います。さらに言いますと、見合い事業がありましたですか。

○委員

継続的にされていますけどね。もう少し、たくさんおられるわけですから、チャンスをつくってくような。

○会長

今、どこでもまち婚などやっておられますけども、まちぐるみでやってみるのもいいと思いますので。

○委員

そのまち婚ですけど、テレビのお見合い番組でお笑いコンビの出てるのあるでしょう。ご存じですかね。八千代だったかな、あそこも出たよね。若い子は知っと思ってやと思うけど。加西市をアピールするためにも、あれはね、自治体が申し込みしないといけないのですわ。個人的じゃなくて。加西市がテレビのお見合い番組にメールか何かで申し込むんだと思うけど。そうしたら加西市もアピールできるし、加西市のお嫁さんのない男の人を、お嫁さん欲しいわって、県外市外、あるいはテレビで募集するから、結構みんなあれ見えますよ。行政の方、お願いしたいです。そうしたら、そのきっかけでね、加西市もちょっとアピールできるし、八千代見たとき面白かったですよ。自治体の人そんなことご存じですか。

○事務局

一昨年でしたか、テレビでやってたんですよ。多可町に来てましたね。

○委員

加西市でしないのかって、ずっと最初思ってたんだけど。それもまたお願いしたいです。

○会長

申請ですと、シティセールスとそういったものにつけ加え、合わせていけるんじゃないかというご意見ですね。ありがとうございます。

○委員

私は、ずっといいなと思っていたんだけど。

○会長

こういうことをつけ加えてはどうかとか、こういうふうなご意見どんどんいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。まだご発言いただいていない方からいただきたいんですけど。

○委員

ちょっと質問なんですけど、素案の資料の10ページの人口増対策の基本目標の未婚率で、女性の25から34歳が46.6パーセントに目標を設定されて。女性っていうのは、どうしても出て行ってしまふんじゃないかなというような気がしてるんですけども、女性をターゲットにして、目標設定されてる意味合い的なものを教えてもらえればと思います。

○会長

お答えいただけますでしょうか。

○事務局

女性、未婚率ですから市内の25歳から34歳の女性のうち、何人結婚しているか、何人結婚してないかという数字になるんですけど。市内の男性が、市外の女性を連れて、結婚でね、市内に転入していただければ、例えばそこが増えていくと。なぜ、女性を目標にしておるかというところは、やはり社会増で女性を増やすことがまず第一に必要なのですが、そこには男性は必要じゃないという意味じゃないんですよ。やはり、その女性が次に出産によって自然増を図っていくというところで、まずは実際22年の数値でいうと未婚率、男性のほうが加西市は66%ほどあるので、高いのですが、女性を数値目標にしておるのは、次の出生、自然増のほうにつなげていきたいというところがありまして、そちらの方により注力をするという意味合いで、目標として挙げさせてもらっております。

○委員

それと、結婚せいと言っても、男が頼りなかったらなかなか女性のほうも結婚しないのじゃないの、正直言って。コンビニもいろいろあるわけだから。聞いたら好きでもない男に炊事洗濯して飯までつくって、いのはかなわんというような話も聞くわけで。フランスみたいに、独身で、子供が産まれても、その場合それを市で育ててあげるといようなことだったら面白いやないかと。ここに独身の女の人、住みなさいよと。それで子供産んでも、働きやすく、育てやすいまちだとか。フランスはそれで出生数は増えてきているのだからね。そんないろいろ言うたって、なかなかそれは結婚しないよ。そうだったら、とうに結婚しとるんやけどやな。その辺の何か違うことも考えないと、今のことができてないやつに、できない子に頭たたいて勉強しろと言うたってできないのと一緒で、違う角度から言うような政策も必要やないかなと。あくまで私案なんですけどね。

○会長

フランスの場合は、「パックス」といって、結婚しないでも子供なりの権利がちゃんと補償されるという、やはりそういった法律的な背景がございます。それからもう一つは、子供手当てですね。極めて充実しております。ですから、女性一人であっても、子供を育てることは十分可能です。あとは文化的な違いですね。向こうはいわゆる、例えば昔ファビウスっていう首相おりましたが、彼は恋人はいたんですけど結婚してなかったんですね。事実婚状態でしたけども、要するに首相がそういうふうなことでも批判されないという国で、それは文化的な違いなのです。なかなか本市で

できるかどうかはわかりませんが、極めて私は面白いご意見だと思いますし、何か女性が単身でも子育てができるとか、育てられる地域であるというのは、いいご提案だろうというふうに思います。例えば、それは保育所の問題。保育所はご存じのとおり、単身女性に対しては優先的に割り当てるとかという制度はございますけども、それだけでは恐らく子育てに十分ではございません。例えば、子育ての相談に乗ってくださっているような方がいるとかですね。それから先ほど委員おっしゃっていたまちぐるみで子育てをしてくれるようなまちだというふうな印象があるかないかというは、すごく違いがあると思いますので、何かそういったご意見は面白いと思うんですね。

○委員

転入してもらえたら一遍に2人、3人も増えると。男は子供産まれないのだから。

○会長

なかなかそういった文化的な違いもあるのでいきなりフランスのような形にはならないとは思いますが、先ほど言ったように一人でもちゃんと子育てができるようなまち。まちぐるみでしていくというのはいいと思いますね。ありがとうございます。

○事務局

資料2の13ページのほうに、先ほどおっしゃっていただいたのには多分足りないと思うんですけど。ひとり親家庭の支援ということで、子育て支援をする中でも、そういうひとり親家庭については、先ほどの会長がおっしゃったようにより優先的な、より手厚いような支援をすることで、検討しています。

○委員

それは、だから結構ホームページか何かにかいたら、自然がいいとか、どうのこうのいうよりも、子育てが非常に、女性単身で来られたら、住みよい非常に温かいまちですよというような支援策がありますよというようなこと書くとやね、全国的に結構来てくれかはわからんよ。

○会長

先ほど委員がおっしゃったように、子供の成長にあわせてちゃんと支援が、要するにシームレスにできるというのは多分大事だろう。先ほど、乳児、幼児、学童とおっしゃいましたが、その中では、おっしゃっていただいたように高齢者の方の役割も多分大きくあるだろうというふうに思いますので、そういった施策というのは、このひとり親家庭支援の中の詳細に入るときには、つけ加えていただければというふうに思います。ありがとうございます。

○委員

一つの点は制度的なもので、線としてつながってないわけやから、一つ一つ個々に行政がされとるからね。乳児の手当てはこういうのですよと。ずっと一つの流れとしていかんとやね。利用するほうは、一つ一つ項目探すのが大変なんですわ。だからわかりやすくもっと流れを線としてつながっていくような、そういう施策が必要だと思うんですけどね。

○委員

いつの時代に平衡するかという目標をつくらないと。それが減らないでプラマイゼロになるというのは5年先か10年先か。そこからがアップになるわけだから。そのためには、今500人の減

少分が300人、それどんな政策、そういうことで打って行ってやるという、まあ会社でいったらそういうことなんや。これをやるのだったら、そのために政策、設備投資もしないといけない。人材も登用しなといけない。それでどうかと。1年見て、できてないというたら、まだああ能力が悪かったら交代やと。それで、投資が足らなかつたらお金も出そうというような判断して行って、その目標に近づけていくということだから、余り大きな夢ばかり書いとってもやね、報告書はまとまるんだけど、効果が何も余り発揮できない。それでは残念やないかと思うなあ。

○会長

先ほど申しましたように、人口、社会増を増やすには、ここで5人ここで10人という政策が一番多分有効なのは、これは他の自治体なんかの経験でもそうですので、委員がおっしゃったように、例えばこの政策でどれくらい増えるんだろうというのは、ちょっと考えながらやっていかなければいけない。

○委員

今、それが電池製造会社と、それから来年ぐらいから外国人研修生の期限が3年から5年なる、そしたら2年間増えるから、その分の外国人労働者が何人カウントできるのか、結構大きいと思う。それでどう埋めていくかという。そしたら結構ベースの数字ができてくるのではないかと思うね。

○会長

ありがとうございます。委員がおっしゃったのを整理するといえますか、例えばご存じのとおり乳児だと保健所、まあ保健センターが監督して、学童だと今度、学校の教育委員会が監督。ですからやっぱり成長に合わせて、この市では支援ができるっていう流れは多分大事だろうというように思いますので、ありがとうございます。

それに、他どうでしょう。まだご意見いただいてない方からちょっといただきたいので、すみません、いかがでしょうか。余り指名はしたくないんですけど。どうぞ、お願いします。

○委員

ちょっと先ほどの話に戻ってしまうんですけども、社会増ということで、当然ですけども優良な住宅の供給が必要だと、これは当然転出を防いで転入増と先ほどおっしゃってたんですが、まだ全然サンプルがないかとは思んですけども、実はベルデしもさと、かなり後4戸まで売れてるんですよ。かなり人気があると聞いておるんです。実際、24戸だけの話なんですけど、いろいろはじいたんですが、実際転入の方が多いのか、市内の方が買われるのが多いのか。実際これは統計を見てますと、サンプルは半分が転入の方だと想定しているということなんですけど、余りも数が少な過ぎるんで参考になるかどうかあれなんですけど、現状っていうのは大体どんな感じなんですか。

○会長

もし情報があれば教えていただけますか。

○事務局

ベルデの場合は、6割が市内の転居の方で、4割がUターンであったりとか、市外から住民票を移される方。調整区域というところを考えますと、市街化区域の宅地、西高室の区画整備300区画ができるという方向では進んでいるのですが、市街化区域になると、よりその地域のカラーが薄

れていくのではないかとこのころで、2分の1という係数を掛けるという判断をしております。

○会長

よろしいですか。ありがとうございます。他いかがでしょうか。何かご質問がありますか。ご意見、ご質問どうぞ。ちょっとすみません、順番に、何かもしあれば。

○委員

私もパターン3の加西市独自の人口推計見て、はっと驚きました。シミュレーションとはいえ、社人研のデータであるとか、日本創成会議のデータであり、この人口減が今のペースで続くと将来これだけ減るといふ、そういう予測だと思ふですね。だから、加西市の独自推計してく上で、今のペースを覆す、だからどれだけのね、そのドラスチックなプランを打ち出せるのか。だからそういうどれだけまで具体的な施策が打ち出せるのか、その辺がもっと知りたいなという思いが今しています。それと、そのドラスチックでなくても私思ふんですけども、加西市に足を運んでもらう、その活動を増やす。だから次の手だてとしては、足を運んでもらった人に加西市を売ってもらふ。今度は滞在時間が大事になると思ふんですね。滞在時間を増やすためのそういう仕掛けみたいなものも必要ではないかというふうな思いがします。

○会長

例えば、どうでしょう。先ほど前半部分は恐らくおっしゃったとおりで、まずこのシミュレーションしてみて、そこから委員おっしゃったように、じゃその埋めるのは具体的にどうするのだと。実際、人口が増えてるところがさっき言ったようにこれで50人、これで15人というように計算するんですね。それができてないところがどうだというのは言われていますので、まさにおっしゃったとおりと思います。2番目のところなんですけど、例えばどうしたら滞在してもらえますか。

○委員

例えば、私自身の経験から言うと、加西のフラワーセンターで例えばそこでお酒飲んだ。それで帰りは同じ方向の人に送ってもらふ。そしたら泊めた車を翌日取りに、フラワーセンターに来る。神戸電鉄の最寄駅から粟生。粟生から北条鉄道。駅に行ったとき、ねっぴーバスか神姫の路線バスに乗ろうと思つても、あの観光の名所であるフラワーセンターまでのバスの便がない、ない言うたら怒られる。非常に不便なんですよね。だからそういう交通機関、コミバス、そういったものの充実を図ることが、まあここにも書いてあるんですけどもね。戦略にも書いてありますけども、滞在時間をふやす一つの方策になるんじゃないかと思ふます。

○会長

コミュニティバスのところですね。

○委員

結局、僕も仕方なく30分、40分もやったら待とうと思つたけど、それでもまだ乗れない。だから結局、タクシーで行くことになったんですね。

○会長

ありがとうございます。交通網の部分っていうのは大事だと。これはよく他の自治体でもよく言われるところなんですけども、加西の場合は、コミュニティバスということなんですけど、他にも北条

鉄道などいろいろありますけども。そういった公共交通網どうしていくかの重要性をご指摘いただいたと思います。ありがとうございます。いかがでしょうか。

○委員

私もこれ見させていただいてたんですけども、先ほど企業の方にもヒアリングされたということでも聞いたんですけど。本当に率直に企業の方がどうおっしゃってたのかという、その率直な生の意見のところはもうちょっと知りたかったなというのと、あとやはりこれからの世代の子たちが本当に加西に残りたいと思ってんのかと思ってないのか。まあ今の高校生、出て行った大学生の子たちの意見っていうのもやっぱり聞きたいかなとは思うんですね。やっぱりどの施策見ても大人目線の施策であって、子供の意見が、子供はこう考えてるんだよという、つたない意見が出てくると思うんですけど、やはり彼ら彼女たちがここに住んでもらわないと、この人口増とかいうのは実現しない話かと思うんで、そういう若い世代の意見が率直に反映されてくると何かきっかけがもっと見つかるのかなというふうに感じております。以上です。

○会長

ありがとうございます。何か例えば、いろいろとお客様と接する中で何かそういうようなヒントになるようなことはございませんか。子供はこんなこと考えてるよとかでも結構なんですけども。

○委員

どうでしょうかね。ちょっと、やはりごめんなさい、お店の中でもご高齢の方のほうが多いので、ちょっと学生の方とそういうお話をする機会とかちょっとないので、ちょっとわかりかねるんですけども。

○会長

ありがとうございます。次の方お願いできますか。

○委員

今、子どもが3人いて、みんな男の子なので、あともう一人女の子欲しいなって思うんですけど、お金のことを考えたらなかなか踏み切れなくて、子供やから大学にも行かしてあげたいと思うし、もうちょっと子供手当とか、3、4人産んだら出産祝い金として、ほかの市とか企業とかでも100万円とか、ポンと入るって話を聞いたので、そういうのが充実していただければ踏み切って産める家庭も多いんじゃないかなと思います。

○会長

どうもありがとうございます。出生率回復の点は先ほどおっしゃっていただいたように、子供の数、要するに今、生まれる子供の数が増えることなんですけど、実は子供を躊躇される原因というのは子育てというよりも、むしろ実は先ほどおっしゃった教育費がネックだというのは、これは国のほうの統計でも出ております。仮に例えば、大学へもし3人行かせるとすれば、今国立も高くなりましたけども、私学で平均して100万円ぐらい、もし下宿させると200万円近くなると。3人だと600万円。まあ同時には行かないにしても、4年間ですから3人だと、平均して10年ぐらいかかると考えていただければ、相当な金額が家庭負担になるというのはわかると思いますけども。そういう意味では、私も大学いるんですけど、確かに学費の問題は大きな問題だというのは、これは事実。企業の中で、先ほど言ったようにお祝い金という形で出される場所とか、それから独自

の確かに子供手当を出しているところもございます。フランスは極めて子供手当が充実しております、恐らくそれが多分理由だろうと思うんですけど、フランスは実は格差が少し是正されてるところなんですね、ほかの国に比べて。それは恐らくそういう子供手当などの充実が多分要因だろうと言われてはいますけども。なんとかこれ入りませんか、先ほど言ったような。例えば、要するに子供さん3人以上のところには、奨学金ですよ。はっきり言うかね。

○事務局

我々としても、庁舎内の議論においても多子世帯向けの支援というものは、多々出てくるワードなんですよ。今回のアクションプランの中でも、子育て応援券というふうなものを設けてございます。これが一定、子育てをされるご家族への金銭的な補助というような形で実現できればということを考えてるんですが、あとは財政規模といいますか、補助規模といいますか、その問題をどこまで市が頑張れるかということかなというふうには思います。そういった側面でものを言うとなんかところかなと思います。極力、保育料の無料化も含めて多子世帯向けの支援っていうものは行っていくのですが、新たなものとすればそういう子育て応援券的な形で財政支援をすると、家計支援をするというようなところは検討していきたいということで、今も掲げさせてもらっているところです。

○会長

あとは奨学金の助成ですとか、一応14ページには書いてありますので、そういった内容ですとか、それからあとは通学のための交通費の補助とか、そういったものが多分これから考えられるかなと思います。ありがとうございます。

○委員

教育の面でなんですけど、今義務教育に縛られない学校でサドベリースクールというのが注目を集めているかと思うんですけど。サドベリースクールに通わせたいからわざわざ引越しをされる方とかも多いですし、サドベリースクールの周辺にだけ同じような考えを持った人が次々と移住しているという事例があったりするので、行政としてサドベリースクールを建てるというのは難しいかもしれないですし、市民レベルの話なのかもしれないんですけど、引きこもりであったり、学校に通いづらい子をターゲットにして、そういう子たちに優しいまちという売り出し方というか、考え方で一つだけ特区をつくるなどして、優しい教育という押し方も一つとしてはあるのかなと思っています。

○会長

それは、例えばどんな、具体的にはどこら辺でそういう事例があるのですか。

○委員

多可町にもありますし、篠山市でもこれからつくられる予定で、どんどんできてきているようです。

○会長

なるほど。どうでしょう。こういうご意見なんですけど、教育委員会の方は多分おられないね、事務局にはね。高等学校以上の件なんですけども、教育に関してはどうしても学校に来させるというのがずっとあったのですが、最近ちょっと実はそれが文科省の方針もちょっと変わってきていますので、様々な施策が打てると思うんですけど、何かこれについて今のところ考えておられますか。

○事務局

ちょっとその今おっしゃっている形態の教育施設というものをまずは勉強させていただくところから始めないと、今ちょっと我々その知識を持ち合わせていないので。ただ教育委員会も含めた義務教育の世界とどう共存、並立できるのかということも含めてちょっと考えないといけないのかなと思います。まずは研究させていただきたいと思います。

○会長

先ほど申し上げましたように、文科省のほうもだんだん変わってきてましてね。無理に学校来させる。今だったら学校来て、保健室登校とかって形で対応してましたけども、要するにこれは校長さんの評価で学校に何人来させたかっていう評価になっちゃうもんですから、どうしてもそうになってしまう。それはいかなものかっていうので、今それを変えようという方向になってますので。ですから、そういう文科省の方針などもちょっと踏まえながらですね。引きこもりだとか、学校に行けないとかっていう子たちも含めて、あらゆるところに教育の機会があるというのは、私は何年も生涯学習のこと言っていますから、そういったところは大事なことかなと思いますので、何かちょっとそういう発想があってもよろしいかと。先ほど言ったように、子育て、教育というのはずっと連続してやっぱりこのまちがそれに相応しいというまちだというふうに認められることが多分大事だろうと思われませんが、先ほどおっしゃっていただいた教育に優しいまちという、非常にいい言葉かなと思いますので、少しちょっとお考えいただいたらいいと思います。

○委員

私はまだ学生で、皆さんのように社会のことは余りよくわからないんですが、実際加西市で生活している中で、アルバイトを加西市内でしてるのですが、そこで働かれていますお母さん方が保育所から子供が熱出したときに急いで迎えに行かないといけないということが結構あって、今テレビでもドラマでやっているように、訪問型の病児保育が加西市にもあったらいいのではないかなと思います。また、私は大学には車で通っているのですが、通えるところって少なく、神戸とか姫路でも車だったら早いけど、バスとか電車で通おうと思ったら住んだほうが早いとか、ひとり暮らししたほうが安くつくとかいうことが多くて、周りの友達も下宿している、市外に出て行っている人が多いと思います。市外に出て行ったら出て行ったままそこで就職するということが多いため、バスとか電車の運賃はできるだけ下げたりとか、1時間に1本とかでなくもう少し本数を増やすなど改善していただけたらいいなと思います。

○会長

ありがとうございます。先ほど聞かれた、若い世代のご意見として、やはり通学とかは大事なことだと思います。これは先ほど委員もおっしゃってました交通の問題と関わる話なので。この後、何か現状あるいは施策の中でそういうものはございますか。

○事務局

公共交通というのは、本当に多くの人からご意見としては承っているんです。先ほども転入出者のアンケートをとっても、やっぱり交通事情に関する不満というものはほぼ一番上位にくるような状況なんですね。ただ、なかなか都会のような密度で走らせるだけの力自体を自治体を持っていないというところがあって、非常にハードルは高い取り組みなのですが、できるとすれば必要な時間帯にのみ例えば集中をさせて、利便性の向上を図るということぐらいは実現したいというふうな思

いを持っているんですが、そこらあたりの中で利用者にとって利便性の高い、密度は都会ほどではなくても、そういうところで何とか打開策を見出していきたいというところで考えていくことになろうかなと思われま。非常に難しいところなのですけれども、考えていきたいというところかと思われま。

○会長

公共交通は特に法律ががんじがらめなので、なかなか融通をきかせるのは難しい。例えばこれはある事例ですけども、それだったら逆手にとって全部ただで運行すると。そしたら道路運送法に引っかからないと、まあこういうふうな発想でやっているところ。まあこれは規模が小さいからできるところですけどね。ちょっと加西だと規模が大きすぎるかもしれないけれども。そういったいろんな発想はあると思いますので。先ほどおっしゃったように安く移動ができるというのは、多分大事なことだろうと思います。ありがとうございます。

○委員 少し気になったのが、持続可能な策になっているかというところなのかなと思います。公共工事よくあるのは道路をつくるのに、そのときは多少効果があるんですけども、できた後の道路を果たして使っているかという、そういう視点があるのかなということですね。例えば、うちの会社でいうと家賃補助ですね。5年間出たりしたときに、5年で終わってしまった後に別のところに引越してしまうとか、結構そういうのもあったりしたものですから。そういう視点でどこまで、やっぱりお金は限界もありますから、収入と支出のバランスでなかなか難しいところもあるかなと思いますので、そのところが重要なこと、少し。

○会長

おっしゃられるとおり、国のほうは要するに呼び水策というのは、これもその一環なんですけどね。呼び水策っていうので、後は自分で考えろっていうのが国の施策でございまして。要するに呼び水の間に制度をつくれと、体制を作れっていうのが国の方向で、おっしゃられたように持続可能性っていうところでは、多分大きな課題はあると思いますが、このあたりいかがでしょうか。今後の進め方にもなれば、実現に向けた総合推進というところにもなるわけなんですけども。もし事務局としてご意見あればお願いいたします。

○事務局

まさにおっしゃられるように、今回の取り組みも理想形といいますか、最終形といいますか、めざすところはその規模が5万人ということで今動いているのですが、その数値がどうこうっていうことの議論以前に、人口がやっぱり安定化していくというところがある意味重要だと思っているんですね。それが、結果持続可能なまちにつながっていく。その転入出の状況なども含め、安定的にこの加西という地域が、地域の活力を維持できると、それが本質のところでは我々としても認識しておりますので、そういう中で具体のアクションプランを考えていくのですが、これも今はある意味例示をしている部分もございまして、これを全てできるだけ財力というものも実質的には持ち合わせていないというのが現状だと思われま。そういった中で本当の意味で今打つべき手は何かというところを今後検討していきたいというところが、この総合戦略をつくっていくための肝の部分だと思っています。貴重なご意見ですので、その持続可能なものを実現するためのものに仕上げていきたいというところが我々としての思いとして持っているところでございまして。

○会長

ありがとうございます。何かもしありましたら、先ほどちょっとご質問いただきましたけども。

○委員

あと、僕から一個、時代の流れとは反対になるかもわからないですけど、大きい施設を一個つくってほしいなど。

○会長

例えばどんな。

○委員

高砂とかだったら総合運動公園みたいなところに体育館とか、その1,000人とか1,500人とか入れるようなものを今から先ちょっと一個考えてもらったら、いろんなときに使えるのではないかなと。市民会館もこの改修で人数が減るのかな。1,000人から。

○事務局

若干減って800人程度。

○委員

そうですね。だんだん、だんだん小さくなってしまっているから、ちょっと大きい体育館みたいな、あとコンベンションセンターみたいな。三木やったらメッセとか、小野やったらエクラとかあるじゃないですか。それが加西にちょっとないのかなと思って、それに期待しております。

○会長

ありがとうございます。確かにおっしゃっていたように時代的に難しいというのが、重々承知の上でおっしゃっておられると思うんですけど。要するに集客施設ですね。そのものは例えば交流人口なんかに関わる場所なので、そこは何かご意見、いろいろと何かありますでしょうか。

○事務局

施設を市として保有していくということ自体には、確かに時代の波という考え方はあろうかと思いますが、そこについては他方で今、公共施設の総合管理計画みたいなものをつくって、適正な長寿命化であったり、適正な管理をつけようということも我々は命を受けていますので、そういった中で可能な範囲でやっていくということになるかとは思いますが。ただ市民会館も800人になるというものの、これは逆に今までの、ある意味若干窮屈な座席というものを解消し、ユニバーサルな施設に変更するということに即した修繕でございますので、規模が小さくなるのはね、器が結局決まっていますので、ご理解いただければならないところかと思うのですが。あとは現在考えておるこの中でうたっておるのは、コンベンションホール的な意味合いではないのですが、観光人口あるいは交流人口ということで、鶺野飛行場であったり播磨風土記というふうな世界で、遊客施設の整備は行っていく必要があるのかなということでは、プランのほうに挙げさせてもらっているところです。

○会長

考え方だと思うんですけどね。分散的につくっていくのか、それとも一つ集約的なものを一つ考えていくのかっていうことで、恐らく委員がおっしゃりたいのは、分散するのだったら集約的なもの

の何か造れないかと。そしたら多様なものに使えますっていう発想だと思いますので。ちょっとその辺り、先ほど言った公共施設管理というのは今、アセットマネジメント言われていますので、その辺りとあわせて。なかなか新しくつくることは難しい、まあいったら改築のときに先ほどおっしゃっていたような議論というのは踏まえてもよろしいじゃないかと思いますね。いわば拠点ですよ。確かに海外からの例えば旅客などを考えたときに、やっぱりそういった拠点に集まるのが事実で、なかなか分散して特に車で回るといのはなかなか難しいのが事実ですので、一つ考えられる方向ではあるかなと思っています。さっき言ったメッセコンベンションなんてのは、まさにそのやり方。もちろんメッセコンベンションなんかつくったら、その運営どうするのが一番大事なので、なかなか小さいまちでは難しいですけど。でもヨーロッパなんかだとメッセを持っているところは決して少なくはないですので、そういう意味では運営の仕方によっては不可能ではないかと。ただ財政的な問題もありますので、すぐにということとはできないかもしれませんが、一つ面白いご意見かなと思います。ありがとうございます。

あと何かこれだけは言っておきたいということがございましたらお願いをしたいと思います。

よろしいですかね。きょう、いろんなちょっとご意見いただいたのですが、まず大きな方針として、子供の問題ですかね。今日かなり皆さん議論が集中したといいますか。そういったものはやっぱり子育てとといったところをきちっとしていかないとな人が来てくれないのじゃないかという社会増のところに今日、ちょっと集中して議論させていただきました。やっぱりこの施策で何人来るっていう具体的な数字ってのは出していないといけないのかなというのは、きょう感じたところです。先ほど言いましたように、人口増やしているところというのは、数字を積み上げていくんですね。そこら辺の考え方っていうのは多分大事で、シミュレーションした結果どう埋めていくのかというところになりますので、このあたりを少しお考えいただくと。その中でも先ほど言った子育ての部分に非常に特化した発想で社会増を増やしていくっていうのは、ここの戦略の大きな柱になるというところは皆さんのいただいたご意見の一つの集約点かなというふうに思うんですけども。いかがですかね。

よろしいですかね。まとめていただくのは、またきょうのご意見踏まえて、非常にいいアイデアもいただいておりますので、そういったアイデアも踏まえて最終的な戦略をまとめていくということになります。よろしいでしょうか。

じゃ、すいません。いろいろと来ていただきましてありがとうございます。大体お時間まいりましたので、これできょうの議論を終了させていただきたいというふうに思います。本日はどうもお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。一旦、事務局にお返しいたします。

○事務局

先生、ありがとうございます。非常に長時間にわたり、ご議論いただきありがとうございます。今後、これらのご意見をベースに、また再度事務局のほうで検討してまいりたいと思います。お急ぎでしょうが、最後ちょっと理事のほうから挨拶申し上げます。

4 閉会挨拶

○加西市理事(地域創生担当)

本当に遅い時間まで、長時間活発にご議論いただきましてありがとうございます。また田端先生には、円滑にご進行いただきまして本当にありがとうございます。本日、本当に特に先ほどから出ていましたけども、女性目線あるいは子供目線ということで、非常に子育て、こういったようなことに非常に貴重な意見もいただきました。そういった姿勢を我々としても十分に活かしながら、そしてきょうの議論全般をいろいろ受けて、また我々の中でも議論を深めて、そしてよりいいものに

なるようにやっていきたいと思しますので、また今後も引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。
またいろんな機会でも是非ご議論いただいたり、またご提案をいただければというふうに思ひます
ので、今後ともよろしくお願ひいたします。

本日は本当に長時間ありがとうございました。